

欠席委員からの意見（花嶋委員）

本日の資料を事前送付したところ、花嶋委員から、下記のとおり書面による意見提出がありました。

【基本となる視点】

低炭素

「低炭素」は重要であり、国全体そして府の計画の全てのベースに流れているものであると思うが、府の環境総合計画の打ち出しとしては、何か特徴的なものを前面に押し出せないかと考えている。

地域循環圏としての関西圏の中の大阪

環境の側面から見て、関西の各府県は相互に役割分担をして成り立っており、一蓮托生であると言える（例えば、水源は滋賀県、その行き着く先の海・フェニックスは大阪・兵庫、生物多様性や「みどりの風」のバックヤードとしての森林は奈良・和歌山）。府内で全てを完結しようとするのではなく、そのような地域循環圏、関西圏のつながりを踏まえた上で大阪が為すべきことは何か（牽引役か、フォーローに回るか）を考える、という視点が重要。

府民を呼び込める計画

部会では、委員だけでなく府民の声も聞いた計画づくりを進めている。環境に関する取り組みは、府民生活や事業者の仕事に大きく関わる問題であるので、積極的に参加してもらえ、計画作りが重要。良い計画を作っても、府民に知られなくては効果は上がらない。

【計画の期間】

社会が大きく変わっているであろう将来の、例えば2050年頃のイメージは作っておくべきと考える。しかし、具体的な実行計画を考えるにはちょっと遠いと思うので、総合計画の目標期間としては10年スパンが妥当ではないか。その中で、3年の重点プロジェクトを回していくのがよいのでは。

【対象範囲】

現計画の対象範囲にある「歴史的文化的環境の形成」は今後とも重要。例えば、「もったいない」という慣習・文化など、次の世代に大切に伝えられる「生活文化」も個々に含まれると考える。

【大きな方向性】

キーワードとしては、廃棄物や水も含んだ広い意味の「循環」、「生物多様性」、府民が毎日接する大気や水などの「安心・安全」ということになるのではないかと。

【施策展開（廃棄物リサイクル分野）】

廃棄物リサイクル分野への府民の関心は非常に高く、また、その対策に府民全員が直に取り組める分野である。取り組みの効果として、廃棄物の減量化という直接的なものだけではなく、「頑張れば成果がある」ことを府民が体験することは、その他の分野の環境負荷の低減に向けた取り組みの入口となることが十分期待できる。

廃棄物をどう流して、最終どう処分しているか、ということをご行政が市民にわかりやすく説明すべき。

大阪人は“お金”に敏感なので、「ごみを減らしたらお得やで」ということを訴えることは有効であろう。そのための方策も検討する価値があるのでは（現在該当するのは「ごみの有料化」くらいか）。

【目標設定と進行管理】

目標数があまり多いとチェックが効かなくなる。本当に環境にとって良いもの、府民にわかりやすいもの、頑張れば成果が出そうなものに絞りこんで、みんなが参加できるような目標を設定し、その目標の達成に向けてみんなを呼び込んで、関心を高めることが進行管理につながるのではないかと。

例えば、コントロールできそうな項目を指標値として、「府民がガンバル項目」、「行政がガンバル項目」、「事業者がガンバル項目」などとして、それぞれ3つずつ設定して公表するなど、計画をわかりやすくアピールし、府民を呼び込む手法を検討してはどうか。

また、直接の進行管理ではないかもしれないが、「子どもがガンバル項目」として「生き物調査（生物多様性）」や「給食の食べ残し削減（循環）」を盛り込むなど、計画を身近なものとしてアピールできるツールも含めてはどうか。将来の社会の担い手は、今の子どもなので。